

実務経験のある教員による科目の配置状況

第1看護学科 1年生(2022改正カリキュラム)

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)	
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の概念の理解を基盤とし、対象である人間と看護の役割・機能について学ぶ。	
		基本技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象のねがいにそった看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を学ぶ。	
		基本技術Ⅱ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の基本技術となる観察、コミュニケーション、感染予防技術等について学ぶ。	
		看護の展開技術Ⅰ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる臨床判断能力等について学ぶ。	
		看護の展開技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる看護過程の基本等について学ぶ。	
		生活援助技術Ⅰ	1	30	○	【環境】【活動・休息】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法の習得を支援する。	
		生活援助技術Ⅱ	1	20	○	【食事】【排泄】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。	
		生活援助技術Ⅲ	1	30	○	【清潔】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。	
		生活援助技術Ⅳ	1	25	○	【安楽・安楽・自立】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で安楽に過ごすための援助方法の習得を支援する。	
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、呼吸・循環を整える技術の習得を支援する。	
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	20	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、診療に伴う援助技術として与薬時の看護技術の習得を支援する。	
		看護の研究的視点	1	15	○	看護師である講師がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。	
		看護の探究	1	30	○	看護師である講師がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。	
				13	315		
		臨地実習	看護を知る実習	1	30	○	臨地において実務者である実習指導者ととも看護場面の見学や体験をとおして「看護」とはなにかを考えられるよう支援する。
基礎看護学実習Ⅰ	1		45	○	臨地において実務者である実習指導者や専任教員とともに患者の思いや生活、対象にあった援助について考え実践できるよう支援する。		
基礎看護学実習Ⅱ	2		90	○	臨地において実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、患者の状況(変化)に合わせて必要な看護を考え実践できるよう支援する。		
			4	165			
			17	480		実務経験のある専任教員による科目は17単位 480時間	

実務経験のある教員による科目の配置状況

第1看護学科 2・3年生(旧カリキュラム)

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の概念の理解を基盤とし、対象である人間と看護の役割・機能について学ぶ。
		基本技術Ⅰ	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の基本技術となる観察、コミュニケーション、感染予防技術等について学ぶ。
		基本技術Ⅱ	2	45	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象のねがいにそった看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を学ぶ。
		生活援助技術	1	30	○	【環境】【活動・休息】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法の習得を支援する。
			1	30	○	【食事】【排泄】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
			1	30	○	【清潔】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる療養上の援助の習得を支援する。
			1	30	○	【安楽】【呼吸・循環を整える援助】看護師である専任教員がその経験を活かし、患者にとって安全で安楽に過ごすための援助方法の習得を支援する。
		診療の補助技術	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護実践をするうえで基本となる診療の補助技術の習得を支援する。
		経過別看護	1	15	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象の健康段階に応じた看護の役割が理解できるよう支援する。
		看護の研究的視点	1	15	○	看護師である講師がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究を実践するための基盤を身につけることを支援する。
	小計	12	300			
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45	○	臨地において実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、看護の役割を考えられるよう支援する。
		基礎看護学実習Ⅱ	2	90	○	臨地において実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、患者の状況(変化)に合わせて必要な看護を考え実践できるよう支援する。
		小計	3	135		
	合計	15	435		実務経験のある専任教員による科目は14単位 435時間	

実務経験のある教員による科目の配置状況

第2看護学科

分野	教育内容	科目	単位	時間数	実務経験	授業内容 (どのような経験を持ち、どのような授業を行うのか)
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の概念の理解を基盤とし、対象である人間と看護の役割・機能について学ぶ。
		基本技術Ⅰ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、看護の基本技術となる観察、コミュニケーション、感染予防技術等について学ぶ。
		基本技術Ⅱ	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象のねがいにそった看護を科学的根拠に基づいて実践するための基礎を学ぶ。
		生活援助技術Ⅰ	3	75	○	【環境】【活動・休息】【排泄】【食事】【清潔・衣生活】看護師である専任教員がその経験を活かし、看護を実践するうえで基本となる生活環境の調整や療養上の生活援助方法の習得を支援する。
		臨床看護総論	1	30	○	看護師である専任教員がその経験を活かし、対象の健康障害の状態に応じた看護の役割が理解できるよう支援する。
		看護の研究的視点	1	15	○	看護師である講師がその経験を活かし、看護研究の意義と必要性を教授し、看護研究の基礎が身につくよう支援する。
		小計	8	210		
	臨地実習	基礎看護学実習	2	90	○	臨地において実務者である実習指導者や専任教員とともに看護を実践し、患者の状況(変化)に合わせて必要な看護を考え実践できるよう支援する。
		小計	2	90		
		合計	10	300		実務経験のある専任教員による科目は10単位300時間